

自主防災組織

災害による被害を最小限におさえるには、まず自分と家族が無事であることが大切となります。それから地域住民が協力して火災の初期消火や、負傷者等の救出救護などを行うことが重要となります。そのために自主防災組織が必要となります。

この自主防災組織は、自治会などの単位で結成されるもので、地域住民が自主的に連携して防災活動を行う団体のことをいいます。日頃から防災知識の普及、地域の安全確認、防災資機材の備蓄、自主防災訓練などを行い、災害時には初期消火、救出救護、安否確認、炊き出しなどを地域で協力して行います。

各個人の行動

地震の揺れに注意し身を守る



火元の確認

- ガスの元栓を閉め、電気スイッチブレーカーを切る。
- 火が出ても落ち着いて初期消火を行う。
- 家族の安全を確認する。

近隣と協力し初期消火や救助活動

- 救助を求める通報を行う。
- 自主防災組織の活動に協力する。
- ラジオ等により情報を確認する。



非常持ち出し品は必要最低限に

- すぐ持ち出せるように準備する。

自主防災組織に協力し、秩序ある避難生活

- 助け合いの心を持ち、協力し合う。



自主防災組織の活動

素早く火の始末



隣近所に声をかける

- 「近くに火は出てないか」「消火器を使い火を消せ」「漏電、ガス漏れに注意」など大声で知らせる。
- 隣近所の安否を確認する。「見つからない人はいないか」「けが人はいないか」

所定の場所に参集

- 情報班により地域内の被害情報を収集する。
- 消火班による初期消火活動を行う。
- 救出、救護班による救出活動を行う。
- 負傷者の応急救護、救護所への搬送を行う。
- 地域の事業所の協力を得る。
- 困難な場合は消防署等へ要請する。



市と協力し避難所運営

- 避難所生活計画に従った秩序ある避難所運営を行う。
- 住民どうしの役割分担、災害時要援護者に対して配慮する。

災害時要援護者への協力

高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方には

高齢者や乳幼児は、手をつなぐ、背負うなどによりしっかり援護します。傷病者には複数の人で対応しましょう。急を要するときはひも等を使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。外国人の方で言葉が通じない場合には、声をかけて身振り手振りを交えて誘導します。



からだの不自由な人には

それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車椅子の場合は、必ず複数人で協力し、階段を上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。



目の不自由な人には

「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけましょう。話しかける相手の声が頼りなので、話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で、誘導するときは、杖をもっていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかして、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。



耳の不自由な人には

話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに字を書いて筆談しましょう。

